

鹿児島女子短期大学 自己点検・評価報告書

令和5年6月

はじめに

令和 5 年度自己点検・評価報告書は、「志學館未来計画（2022-2027）」下での「2022 年度事業計画」の進捗状況の検証と、短期大学評価基準による点検・評価活動の検証という 2 つから構成されている。

前者については、令和 4 年度の事業について、総評および各基本計画について検証をおこなった。

後者については、令和 3 年度に一般財団法人 大学・短期大学基準協会による認証評価を受審した際に作成した『令和 3 年度 自己点検・評価報告書』に掲げた課題について、令和 4 年度の実施状況を記載した。

目次

1. 令和 4 年度 事業計画の達成状況
 - 1.1 総評
 - 1.2 各基本計画の達成状況
 - 1.3 KPI の達成状況

2. 大学・短期大学評価基準による点検・評価活動
令和 3 年度自己点検・評価報告書に記載した課題への取り組み

1. 令和4年度 事業計画の達成状況

1.1 総評

志學館学園第4次経営計画「志學館未来計画 2022-2027」（以下、第4次計画）を受け、令和4年度から始まった事業計画は「Ⅰ 教育研究活動」、「Ⅱ 学生支援」、「Ⅲ 管理運営」、「Ⅳ 学生受入（学生募集）」、「Ⅴ 社会貢献」の5つの基本計画からなる。

第3次経営計画「志學館未来計画 2016-2021」（以下、第3次計画）では基本計画が7領域あったが、第4次計画では5領域となった。第3次計画の「キャリア教育・進路支援」は、教育課程に関する事項は「Ⅰ 教育研究活動」へ、教育課程外に関する支援事項は「Ⅱ 学生支援」に含まれることとなった。また、第3次計画の「施設・設備」に関する事項については、その対象により「Ⅰ 教育研究活動」「Ⅱ 学生支援」「Ⅲ 管理運営」において取り組むこととした。

また、達成度については、評価基準をS（達成率 101%～）、A（達成率 80～100%）、B（達成率 50%～79%）、C（達成率 20%～49%）、D（達成率 0%～19%）及びN（環境の変化等で施策を廃止した）としている。

令和4年度の基本計画別の達成状況は表1の通りである。達成度Sの項目は全体87項目の2.3%、達成度Aは54.0%、達成度Bは33.3%、達成度Cは4.6%、達成度Dは3.4%、Nは2.3%であった。前年度および第3次計画のもとでの6か年平均と比較すると、評価指標が異なるので直接の比較はできないものの、令和4年度は達成度が低くなっている。この大きな要因としては計画の項目数が前年度の約3倍、6か年を通じた平均項目数と比較しても1.7倍という、計画項目の多さが挙げられる。実際に達成状況がS、Aの項目数は合計49項目であり、これは、前年度までの全項目数に該当する数である。計画の項目数が多くなったのは、計画策定をおこなった令和3（2021）年度に認証評価を受審した際におこなった自己点検・評価により抽出した課題および、国や社会からの高まる要請を計画に反映させたためである。高等教育機関への期待と要請に応えるためにも、各年度の事業計画を全学的に地道に遂行、PDCAサイクルが機能するようにし、達成度を高めていくことが求められる。

表1 令和4年度 短期事業計画 達成状況

達成度	S	A	B	C	D	N	項目数
	101%～	80～100%	50～79%	20～49%	0～19%	—	計
Ⅰ 教育研究活動	0	17	8	0	0	1	26
Ⅱ 学生支援	1	16	4	0	0	0	21
Ⅲ 管理運営	0	6	12	4	1	0	23
Ⅳ 学生受入	0	4	3	0	1	1	9
Ⅴ 社会貢献	1	4	2	0	1	0	8
項目数 計	2	47	29	4	3	2	87
(%)	2.3%	54.0%	33.3%	4.6%	3.4%	2.3%	100.0%

1.2 各基本計画の進捗状況

Ⅰ. 教育研究活動

取組戦略6分野における取組施策23項目にて26の具体的目標を掲げ、達成度はA：17項目、B：8項目、N：1項目である。戦略6分別では「1 学びの質の向上」は目標11項目中達成度Aが9項

目、達成度 B が 2 項目、「2 教育課程の検証」では目標 4 項目のうち、達成度 A が 3 項目、達成度 B が 1 項目、「3 学びの可視化に基づく教育方法の検証」は目標 5 項目のうち、達成度 A が 1 項目、達成度 B が 4 項目、「4 ICT 化の充実」は目標 3 項目のうち達成度 A が 2 項目、廃止した施策が 1 項目、「5 キャリア教育・支援の充実」は目標 1 項目が達成度 A、「6 研究活動の充実」は目標 2 項目の達成度 A、B がそれぞれ 1 項目であり、他項目と比較すると「3 学びの可視化に基づく教育方法の検証」の達成度が低かった。「4 ICT 化の推進」の廃止した施策は「学生の ICT 環境の実態調査の実施」である。教養学科 1 年生に対しては調査を実施したが全体では実施していない。端末貸与終了時に必要に応じて調査を実施することにした。

II. 学生支援

取組戦略 6 分野における取組施策 18 項目にて 21 の具体的目標を掲げ、達成度は S : 1 項目、A : 16 項目、B : 4 項目である。戦略 6 分野別では「1 多様な学生に対する支援の充実」は、目標 4 項目すべて達成度 A、「2 特待性・奨学生制度の充実」では目標 2 項目のうち、達成度 S : 1 項目、達成度 A : 1 項目である。達成度 S は「奨学生制度について改善策の検討」で、成績特待生の継続審議の基準を検討するのみでなく、実際に見直し変更まで実現している。「3 学習環境の充実」については目標 2 項目のうち達成度 A、達成度 B がそれぞれ 1 項目ずつである。「4 進路支援の充実」については、目標 5 項目のうち達成度 A : 3 項目、達成度 B : 2 項目である。「5 進路支援体制の充実」については、目標 4 項目とも達成度 A であった。「6 安全かつエコロジカルな機能性の高い施設・設備の充実」では、キャンパスアメニティ充実の推進、学生がくつろげるスペースの拡充、バリアフリー対応についての充実、学生寮の改善についての検討について、いずれも「現状の把握」を目標に掲げ、達成度 A : 3 項目、達成度 B : 1 項目である。

III. 管理運営

令和 4 年度は取組戦略 10 分野で 23 の具体的目標を掲げ、達成度 A : 6 項目、B : 12 項目、達成度 C : 4 項目、達成度 D : 1 項目である。取組戦略「1 政策・制度変更等への的確な対応」は 2 目標とも達成度 A であったが、他 9 項目では達成度 B、達成度 C にとどまった事項が多かった。達成度 C の 4 項目は取組戦略 3「組織体制の検証」における目標「教学運営体制の検証・改善」、取組戦略 4「FD・SD の推進」における目標「アセスメント・ポリシーに則った FD の PDCA サイクルの検討・改善」、取組戦略 6「危機管理体制の充実と高度化」における目標「災害時の具体的な情報収集、連絡、指示方法の確認と周知」、取組戦略 8「施設・設備の計画的な営繕・リプレイスの推進」における目標「美化計画の策定・実施」である。達成度 D の項目は、取組戦略 10「調査資料に基づく教育内容・方法の改善」における目標「IR 情報収集機能の強化と情報活用方法の検討」である。管理・運営に関する目標は、他の基本計画における取組にも影響がある事項が多いため、目標達成のため一層努める必要がある。

IV. 学生受入（学生募集）

令和 4 年度は取組戦略 2 分野において 9 の具体的目標を掲げ、達成度 A : 4 項目、達成度 B : 3 項目、達成度 D : 1 項目、N : 1 項目である。達成度 D の目標は取組戦略 1「高大接続の充実」における目標「本学が望む学生像とアドミッションポリシーとの整合性の検証」である。廃止した施策は取組戦略 2「入学定員の充足」における目標「普通科高校向け募集活動の充実」である。普通科高校向

け募集活動の充実を図ろうとしたが、本学の高校別入学者や、高校別学年別在学者数の分析を踏まえ、科の種類ではなく、本学への入学者数や高校の在学者数にもとづき、募集活動の充実を図ることとした。

V. 社会貢献

令和4年度は取組戦略3分野において8の具体的目標を掲げ、達成度S:1項目、達成度A:4項目、達成度B:2項目、達成度D:1項目である。達成度Sは取組戦略2「地域創生・連携」における目標「自治体・事業所等との連携の推進」である。令和3年度の連携事業に加え、新たに垂水市と連携協定締結を行った。鹿屋市高隈地域との連携活動も活発に行われた。2年目となるJA鹿児島中央会との連携活動では、今年も2団体の活動が行われ、活動発表会にてその成果を報告した。達成度Dは取組戦略3「卒業生との連携」における「リカレント教育実施に向けた検討」である。コロナ禍の学外実習の対応に教員の時間やエネルギーを要したことと、感染症下でのリカレント教育の実施が現実的ではなかったため検討に至らなかった。

1.3 KPIの達成状況

KPIの達成状況を表2に示した。

表2: KPIの達成状況

基本計画	KPI		
	項目	22年度目標値	達成状況
I 教育研究活動	学生満足度（授業）	80%	89.8%
II 学生支援	学生満足度（キャンパスライフ等）	80%	94.1%
	就職率	97%	98.7%
III 管理運営	外部資金申請数	5件以上	6件
IV 学生受入	入学定員充足率	100%	81.9%
V 地域貢献	年間公開講座開講数	7件	10件
	連携活動件数	35件	45件
	ボランティア幹旋件数	15件	16件

IV学生受入、入学定員充足率以外は目標値を上回った。ただし、学生満足度（授業）の根拠となる授業評価アンケート全体の回答率は、前期が68.4%、後期が66.4%であり、昨年度前期の72.3%に比べても低くなっている。また学生満足度（キャンパスライフ等）の根拠となる学生満足度調査の回答率は全体では85.0%であるが、1年生92.1%、2年生79.0%と2年生の回答率が低い。信頼できる数値となるよう、回答率の向上が望まれる。

2. 大学・短期大学評価基準による点検・評価活動

令和3年度自己点検・評価報告書に記載した課題への取り組み

一般財団法人 大学・短期大学基準協会による認証評価を令和3年度に受審し、適格と認定された。認証評価では「向上・充実のための課題」、「早急に改善を要すると判断される事項」ともなかったが、令和3年度自己点検・評価活動の際に抽出された課題を『令和3年度自己点検・評価報告

書』に記載している。その課題の多くは第4次計画で取り組むこととした（下表には基本計画＞取組戦略＞戦略の具体的な取組内容＞施策の順に記載。取組戦略で複数の具体的な内容を含むものについては取組戦略レベルの記載としている）。

それらの課題について、令和4年度 of 取組状況を以下に記載する（表3）。

『令和3年度 自己点検・評価報告書』記載の課題	第4次計画の項目および ■令和4年度の目標 など	令和4年度の取組状況
【I-A 建学の精神】		
<p>・地域・社会への貢献については、新型コロナウイルス感染拡大防止のため、様々な取り組みが中止・活動縮小を余儀なくされている。このような状況下でも可能な地域との連携方法を検討する。</p>	<p>【志學館未来計画 2022-2027】</p> <p>・Ⅴ社会貢献＞2 地域創生・連携＞③社会情勢に対応した連携方法の開発＞a)災害・感染症発生時の地域連携方法の開発</p> <p>■危機管理マニュアルの検証・改善</p>	<p>本学の現行の危機管理マニュアルについて検討した。問題点について引き続き検討していく。</p>
【I-B 教育の効果】		
<p>・法令や各種資格に係る教育課程・養成課程の見直しが進められる中で、三つのポリシーについてもそれに対応した見直しを検討していく。</p>	<p>【志學館未来計画 2022-2027】</p> <p>・Ⅲ管理運営＞1 政策・制度変更等への的確な対応＞①政策・制度変更等への的確な対応＞b)法令や各種免許・資格に対応した3ポリシーの検証</p> <p>■3ポリシーの適格性の検証とそれに基づいた改訂</p>	<p>各学科で、現行の3ポリシーの適格性を検証し、継続して掲げていくことを確認した。全学的には、3ポリシーの適格性の検証をより実効性のあるものとするよう、学習成果獲得の査定方法を検討している段階である。</p>
【I-C 内部質保証】		
<p>a)教員が自分の担当科目において学習成果の習得を意識して授業を実施するために、教員の意識向上を図る。</p>	<p>【志學館未来計画 2022-2027】</p> <p>・Ⅲ管理運営＞4 FD・SDの推進＞①FD・SDの推進と学内研修体制の充実＞a)学習成果の修得を意識した授業実施のためのFD活動の充実</p> <p>■アセスメント・ポリシーに則ったFDのPDCAサイクルの検討・改善</p>	<p>アセスメント・ポリシーに基づいてデータを収集する仕組み、査定する部署や方法について、再検討を行った。しかし、FDのPDCAサイクルの検討まで至らなかった。</p>
<p>b)学生が学習成果の習得を意識して授業に臨むため、学生に対する履修指導等の充実を図る。</p>	<p>【志學館未来計画 2022-2027】</p> <p>・Ⅰ教育研究活動＞1 学びの質の向上＞②学習支援・履修指導の充実＞a)学習成果の修得</p>	<p>■1：学科・専攻・コース毎に各期におけるGPAを主とした成績一覧等の資料を用いて学生の学修状況を把握した。これらを用い</p>

	<p>を意識した履修指導の充実</p> <ul style="list-style-type: none"> ■ 1 : G P A等を用いた履修指導のあり方の可能性の検証 ■ 2 : 学習成果のチェック表 (社会人基礎力チェック表) などの見直し 	<p>て、特にG P A下位の者に対する履修指導のあり方については、議論を継続している。</p> <ul style="list-style-type: none"> ■ 2 : 令和4年度入学生について、従来の社会人基礎力チェック方法にかわり DP をもとにした評価指標を作成した。入学時評価は準備が整わなかったため、2年進級時からの入力とした。
【Ⅱ-A 教育課程】		
<p>・新型コロナウイルス感染拡大の影響で中止となった取組が複数あった。ICT のさらなる活用など「ウィズ・コロナ社会」「ポスト・コロナ社会」を見据えた教育の実施体制を整備する必要がある。</p>	<p>【志學館未来計画 2022-2027】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ I 教育研究活動>4 ICT 化の推進>①ICT 環境の充実> <ul style="list-style-type: none"> a)ICT 端末および環境の充実 ■ 学生の ICT 環境の実態調査の実施 ・ II 学生支援>3 学習環境の充実>①ICT 環境の充実> <ul style="list-style-type: none"> a)ICT 端末および環境の充実 ■ 1 : 児童教育学科小幼保コース・教養学科学生へのノートパソコンの貸与と有効活用 ■ 2 : Teams 等を活用した授業における資料の提示、課題提出方法の検討と試行 	<ul style="list-style-type: none"> ■ 教養学科 1 年生に対して実施したが、全体では行っていない。現在行っている端末貸与の終了後、必要時に調査を行うこととした。 ■ 1 : 児教小幼保コースへのノートパソコンの貸与を行い有効活用に向けて各科目担当者が意識して授業等に取り入れたが、更なる有効活用に向けた授業の余地がある。教養では従来は紙媒体での提出が多かったレポートをフォーム等での提出に置き換えると共に、デジタルプレゼンテーションの機会を増やした。 ■ 2 : 児教では、科目や状況等に応じて、Unipa や Teams 等を活用した連絡、課題提出指示等を行っている。生活では、科目や状況に応じて、Teams 等を活用した実習、遠隔授業、アンケート調査、課題提出等を実施している。教養では、授業で使用する資料との共有、連絡についてもパソコン上のツールを活用した。

<p>・学習成果を量的・質的データに基づき評価する仕組みを充実させる必要がある。</p>	<p>【志學館未来計画 2022-2027】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ I 教育研究活動>3 学びの可視化に基づく教育方法の検証>③アセスメント・ポリシーの着実な遂行>a)量的・質的データに基づく学習成果を評価する仕組みの確立 <p>■指標となるデータと査定方法の再検討</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ III管理運営>10 調査資料に基づく教育内容・方法の改善>①調査資料に基づく教育内容・方法の改善>a)調査資料に基づく教育内容・方法の改善 <p>■IR 情報収集機能の強化と情報活用方法の検討</p>	<p>■アセスメント・ポリシーに基づいてデータを収集する仕組み、査定する部署や方法について、再検討を行ったが、作業に手間取り令和4年度報告書作成（令和3年度データに基づく）の進捗に遅れが出た。</p> <p>■年度末に学内の全部署からデータ収集を行った。しかし、機能強化を図ることができず、情報活用方法の改善に至っていない。</p>
<p>・ポートフォリオ等の評価ツールの開発も推進する必要がある。</p>	<p>【志學館未来計画 2022-2027】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ I 教育研究活動>3 学びの可視化に基づく教育方法の検証>①学びの可視化の検証>a)ポートフォリオの開発 <p>■ポートフォリオに関する情報収集、履修カルテ等の検証</p>	<p>■学修ポートフォリオに関する他大学などでの取組について情報収集を行いつつ、本学における学修成果把握に活かすことができる運用などについて検討を始めた。履修カルテについては、学科・専攻及び教職課程委員会において適宜見直し、改善を図りながら活用を進めている。</p>
<p>・複数の免許・資格取得の実現と学習量の確保の両立についてさらに検討する必要がある。</p>	<p>【志學館未来計画 2022-2027】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ I 教育研究活動>3 学びの可視化に基づく教育方法の検証>②適切な学習量の検証>a)複数免許・資格取得と学習量の確保の検討 <p>■学生の生活時間・学習時間の調査の実施</p>	<p>■大学・短期大学基準協会が行っている短期大学生調査の項目で、毎年データの収集を行っているが、経年分析はまだ実施していない。</p>
<p>・教養教育については、現代社会の課題に対応するような授業の充実が必要である。</p>	<p>【志學館未来計画 2022-2027】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ I 教育研究活動>2 教育課程の検証>②教養教育の検証>a)学生や社会のニーズに沿った教養教育の改善 	<p>■数理・データサイエンス・AI教育プログラムへの取組として、WGと連携の下、次年度より、デジタル教育プログラム及びデジタル教育プログラム・プラスを設</p>

	<ul style="list-style-type: none"> ■リベラルアーツ教育等の検討・改善 	<p>け、関連科目として新たに4科目を新設し、修得後は修了証を授与する体制を構築した。</p>
<ul style="list-style-type: none"> ・卒業後評価への取り組みの充実が必要である。 	<p>【志學館未来計画 2022-2027】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・I 教育研究活動>3 学びの可視化に基づく教育方法の検証>③アセスメント・ポリシーの着実な遂行>b)卒業後評価方法の構築（卒業生・事業所） <ul style="list-style-type: none"> ■評価方法の検討 	<ul style="list-style-type: none"> ■大学・短期大学基準協会が行っている卒業生調査に隔年で参加し、データを収集・分析している。今後は、別途就職先からのデータも収集し、総合的に評価する仕組みを構築する必要がある。
<p>【II-B 学生支援】</p>		
<ul style="list-style-type: none"> ・基礎学力が不足する学生に対する支援を短大組織としてより手厚くする必要性が今後は一層高まると考えられ、その体制の構築を図る課題が残されている。 	<p>【志學館未来計画 2022-2027】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・II 学生支援>1 多様な学生に対する支援の充実>①多様な学生に対する支援の充実>a)基礎学力が不足する学生への支援の充実 <ul style="list-style-type: none"> ■1：学力の実態調査の実施 ■2：基礎学力が不足する学生への支援の検証・改善 	<ul style="list-style-type: none"> ■1：学科・専攻・コース毎に各期におけるGPAを主とした成績一覧を用いて学生の学修状況を把握した。合わせて、GPAの分布状況が分かる一覧を用いて実態の把握も行い、教授会にて周知した。 ■2：各学科や専攻、学内での支援の現状を取りまとめた。学科専攻により基礎学力として必要な能力も異なるが日本語の理解力や文章力は共通して重要であることが分かった。教職員の追加職務としての対応は難しいため、新たな体制として学習支援員やサポートタイムが計画的に活用できると良い。
<ul style="list-style-type: none"> ・学習成果の獲得状況データを反映した支援方策の構築が望まれる。 	<p>【志學館未来計画 2022-2027】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・III管理運営>4 FD・SD の推進>①FD・SD の推進と学内研修体制の充実>a)学習成果の修得を意識した授業実施のためのFD活動の充実 	<ul style="list-style-type: none"> *基準 I-C 内部質保証 a)参照
<ul style="list-style-type: none"> ・学生が主体的に参画する活動としてのスポレク祭や社会人学生支援としての交流会などを令和2年 	<p>学生委員会活動計画</p> <ul style="list-style-type: none"> ・感染症対策を踏まえた紫苑祭の開催に向け学友会の支援を行う 	<ul style="list-style-type: none"> ・3年ぶりの学内開放で紫苑祭に向け、5月から10月の委員会では毎月議事にあげ、経過の把握や教職員の支援について検討した。

<p>度は新型コロナウイルス感染症予防対策のために中止した。交流の場が特に新入生にとっての大きな環境移行期である新学期に今後も従来の形式で実施できない場合は、新たな手段を検討する必要がある。</p>		<p>11月から1月の委員会では学友会の意見から来年度の開催日程について2日間開催とした。</p>
<p>・就職のための資格取得、就職試験対策や編入学支援に関しては、担当部署の重複等があり、短大組織としての支援の一貫性に課題がある。</p>	<p>【志學館未来計画 2022-2027】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・Ⅱ学生支援>5進路支援体制の充実>①効果的な進路支援体制の構築>a)教員と職員の分業・協力体制の構築 ■キャリアセンター機能の検証と見直し 	<p>■職員による外訪活動や資格・検定情報の集約など、外部との関係性構築や情報集積部署としての機能を強化した。また、各学科から意見を集め、キャリアセンター機能の検証と見直しを図った。</p>
<p>【Ⅲ-A 人的資源】</p>		
<p>・教員が自分の担当科目において学習成果の獲得を意識して授業を実施できるよう、FD活動を工夫する。</p>	<p>【志學館未来計画 2022-2027】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・Ⅲ管理運営>4FD・SDの推進>①FD・SDの推進と学内研修体制の充実>a)学習成果の修得を意識した授業実施のためのFD活動の充実 	<p>【基準 I-C 内部質保証】 a) 参照</p>
<p>・また、令和2年度に設置したFD・SD委員会を中心に、教員と職員の連携強化を図る。</p>	<p>【志學館未来計画 2022-2027】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・Ⅲ管理運営>5ガバナンスの充実>①教職協働体制の推進>a)教員と職員の連携強化 ■現状の検証・改善 	<p>■前期に全教職員を対象にアンケートを実施し、意識調査を行った。3月研修会でのフィードバックを予定している。また、2月教授会で「障がい学生支援に関する基本方針」の周知を行った。</p>
<p>【Ⅲ-B 物的資源】</p>		
<p>・火災・地震対策、防犯対策のための訓練について、万が一の災害時に備え、コロナ禍においても十分な実効性のある方法を検討していくことが今後の課題である。</p>	<p>【志學館未来計画 2022-2027】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・Ⅲ管理運営>6危機管理体制の充実と高度化>①危機管理体制の充実と高度化>a)防火・防災訓練のあり方の検討 ■防火・防災訓練のあり方の検討・試行 	<p>■全体集合は感染症対策のため今年も避けた。今年は代替措置（学科・専攻ごとに実施）の際の資料に新たにQRコードで学生生活の手引きページや気象庁、自治体のHPや動画サイトを紹介し、万が一の際の備えとして分かりやすくリアリティのある情報を提示し</p>

		た。
<ul style="list-style-type: none"> 地震・津波・桜島大規模噴火対策の充実が課題である。 	<p>【志學館未来計画 2022-2027】</p> <ul style="list-style-type: none"> Ⅲ管理運営>6 危機管理体制の充実と高度化>①危機管理体制の充実と高度化>b)地震・津波・桜島大規模噴火対策の充実 <p>■災害時の具体的な情報収集、連絡、指示方法の確認と周知</p>	<p>■5月の防火防災訓練では、クラス単位で一般的な周知を行ったが、地震等に特化した具体的な対応の確認・周知には至っていない。</p>
<ul style="list-style-type: none"> 新型コロナウイルス感染拡大防止のため、インターネット通信を利用する機会が格段に増したため、情報ネットワークに関する学内の規程整備も含め、情報セキュリティ対策の一層の充実を図る。 	<p>【志學館未来計画 2022-2027】</p> <ul style="list-style-type: none"> Ⅲ管理運営>6 危機管理体制の充実と高度化>①危機管理体制の充実と高度化>c)情報セキュリティ対策の充実 <p>■コンプライアンスにおけるセキュリティ対策の周知徹底</p>	<p>■教職員に対して情報関連のコンプライアンス意識を向上させるため、12月教授会等で最新の情報セキュリティに関する講演会を実施した。</p>
<ul style="list-style-type: none"> 校地と校舎のバリアフリー対応について、今後一層の充実を図る。 	<p>【志學館未来計画 2022-2027】</p> <ul style="list-style-type: none"> Ⅱ学生支援>6 安全かつエコロジカルな機能性の高い施設・設備の整備>②バリアフリー化の推進>a)バリアフリー対応についての充実 <p>■現況の把握</p>	<p>■3月に車椅子利用の学生やよく補助する学生からの聞き取り調査を行った。それに基づいて、大教室への車いす用の机の設置、ロッカーの場所の変更を行った。</p>
【Ⅲ-C 技術的資源をはじめとするその他の教育資源】		
<ul style="list-style-type: none"> 新型コロナウイルス感染拡大防止の観点から、対面授業の代替として実施される遠隔授業を効果的に実施するためのハード面、ソフト面両方の整備と技術の向上を図る。 	<p>【志學館未来計画 2022-2027】</p> <ul style="list-style-type: none"> Ⅰ教育研究活動>4 ICT化の推進>①ICT環境の充実、および②学生・教職員のICTスキル向上 <p>■①1：学生のICT環境の実態調査の実施</p> <p>■①2：遠隔授業実施のためのハード面についての検討・改善</p>	<p>■①1：教養学科1年生に対して実施したが、全体では行っていない。現在行っている端末貸与の終了後、必要時に調査を行うこととした。</p> <p>■①2：学内での欠席者に対する課題対応の結果も踏まえつつ、遠隔教育のコンテンツに適したシステム等の調査をした。また他大学の動向についても得られた事例をメンバーで共有した。</p>

	<ul style="list-style-type: none"> ・ II 学生支援>3 学習環境の充実>①ICT 環境の充実>a)ICT 端末および環境の充実 <p>■ICT 関連 FD の実施</p>	<p>■3 月にデータサイエンス教育に関する FD・SD 研修を実施した。</p>
【Ⅲ-D 財的資源】		
<ul style="list-style-type: none"> ・ 法人全体の教育活動収入における学生納付金収入は安定推移しているが、補助金収入が減少傾向にある。バランスの取れた収入構成とするために、今後の鹿児島県の 18 歳人口・大学進学率等の推移を見極めた適切な定員管理を行うとともに、教育の質向上、修学・就職支援の充実及び学生満足度を高めるために、教育研究経費、教育環境・施設整備等への予算配分の拡大を積極的に行っていく。 	<p>【志學館未来計画 2022-2027】 [法人]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ I 経営力の向上>3 定量的目標に基づく財政基盤の維持・向上 	<p>■適確な予算編成のもと月次予算の執行管理を徹底し、可能な限り補助金対象事業の申請を行い、KPI 目標の全項目を達成した。</p> <ul style="list-style-type: none"> ① 経常収支差額比率 (目標) 8.0%以上 (実績) 8.0% ② 教育研究経費比率 (目標) 29.5%以上 (実績) 29.6% ③ 管理経費比率 (目標) 6.5%以下 (実績) 6.5% ④ 人件費比率 (目標) 56.5%以下 (実績) 55.7% <p>■大学・短大の修学支援新制度と学園特待制度における奨学金と入学者数の関連分析のもと、費用対効果を検証し、制度の継続性を確認した。</p>
<ul style="list-style-type: none"> ・ 競争的外部資金の獲得や寄付金額の増強などの学生納付金以外の収入を安定的に確保できる体制を構築していく。 	<p>【志學館未来計画 2022-2027】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ I 教育研究活動>6 研究活動の充実>①外部研究資金獲得の促進>a)外部研究資金獲得の促進 ・ III管理運営>9 私学助成補助金等の獲得推進と教育施設の充実>①私学助成補助金等の獲得推進と教育施設の充実>a)私学助成補助金等の獲得推進と教育施設の充実 <p>■補助金獲得条件のチェックと充足</p>	<p>■大学改革推進事業に関して、次回申請に向けて、大学との情報交換を行うなど、獲得条件のチェックを詳細に行った。また、年間の外部資金申請数を 5 件以上という数値目標を掲げ獲得の推進を図り、令和 4 年度は 6 件の申請が行われた。</p>

<p>・入学定員充足率及び収容定員充足率の向上を図る。</p>	<p>【志學館未来計画 2022-2027】</p> <p>・IV学生受入>2 入学定員の充足</p>	<p>入試、学生募集、広報にかんして様々な取り組みをおこなったが、定員充足には至らなかった。</p>
<p>【IV-A 理事長のリーダーシップ】</p>		
<p>・教育環境のICT化の促進は、学園全体としても課題である。新型コロナウイルス感染拡大により遠隔授業はじめウェブ上で学生とコミュニケーションをとる機会が増加した。志學館未来計画でICTの推進を掲げており、来年度新たに策定する長期計画においても、コロナ禍という状況下というだけでなく、建学の精神「時代に即応した堅実にして有為な人間の育成」の具現化や教育の質の担保、教育機会の公平性という観点から、ICT化の促進をもちこむ必要がある。</p>	<p>【志學館未来計画 2022-2027】</p> <p>・I 教育研究活動>4 ICT化の推進>①ICT環境の充実、および②学生・教職員のICTスキル向上</p> <p>・II 学生支援>3 学習環境の充実>①ICT環境の充実>a)ICT端末および環境の充実</p>	<p>【II-A 教育課程】 参照</p> <p>【III-C 技術的資源をはじめとするその他の教育資源】 参照</p>
<p>【IV-B 学長のリーダーシップ】</p>		
<p>・短期大学の向上・充実に向けて教学運営体制の合理化を図るべく、改革を行ったが、その効果や課題を検証し、改善を図る必要がある。</p>	<p>【志學館未来計画 2022-2027】</p> <p>・III管理運営>3 組織体制の検証>①組織体制の検証>b)教学運営体制の検証・改善</p> <p>■教学運営体制の検証・改善</p>	<p>■今年度は教学マネジメント会議、IR室が十分に機能しなかった。再構築に向けて組織改革の必要がある。</p>

「志學館未来計画 2022-2027」の次の計画を策定するのが2027（令和9）年度、4巡目の認証評価受審は2028（令和10）年度となるため、次回の認証評価受審時は、令和3年度に抽出した課題の取り組み状況（結果）を報告書に記載することとなる。建学の精神のもと、教育の質保証や環境充実に向けて各課題に取り組むたい。